

■H21年度 第2回 博物館協議会 要点録■

平成22年2月3日(水) 13:30～ 長浜城歴史博物館研修室

出席者：嶋田会長・中島委員・小和田委員・田中委員
中島・森岡・太田・北村・橋本・田上

13:30 開会

(北村) それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成21年度第2回長浜城歴史博物館協議会を開会いたします。皆様方にはご多用のところをご参集賜りお礼申し上げます。私は本日の司会を務めます北村です。どうぞよろしくお願いいいたします。

長浜城歴史博物館館長の中島からごあいさつ申し上げます。

(館長) 委員の皆様方には常日頃より博物館運営のご指導ありがとうございます。本日はお忙しい中ご参集いただきまして、大変ありがとうございます。1月1日に市町村合併いたしましたので、広域になったことから周辺町の資料館関係が長浜城の所管となったため博物館事情も大きく変わってまいりました。

現在、特別展を開催中ですので、後ほどごらん頂き、またご指導いただければと思います。

(北村) 博物館管理規定第10条第3項「会長は、会務を総括し、会議の議長となる」とありますので、嶋田会長に議長をお願いします。

(会長) 規定によりまして議長を務めさせていただきます。議事進行につきましては、皆様のご協力をお願いしたいと存じます。それでは早速議事に入らせていただきます。まず議題1の「特別展等の展示見学・説明について」をお願いします。

(橋本) それでは、特別展の展示説明からいたしますので、展示室へ移動をお願いします。

委員・職員、展示室へ移動。

展示説明終了

(議長) それでは、今ほどごらん頂きました展示の講評についてお願いします。

(中島委員) 蚕棚の写真を見て、思い出したことがあります。私たちが小さいときは出征軍人の家に蚕のお世話に行くんです。時無しに蚕は桑を食べますので、一晩中そのお世話をするんです。食べる時すごい音がするんです。それを思い出しました。

(小和田委員) 今回地元の業者と一緒にできたのがやったなあと思います。個人のお宅で保存されていたのがこのように展示できたことは成果だなあと感じました。もうひとつ馬鳴菩薩っていうのは、蚕の神様っていう言い伝えがあるんですか。

(橋本) 馬鳴菩薩っていうのは、右手に蚕、右手に桑の枝をもっています。江戸期を中心に

関東を中心に馬に乗った観音菩薩を馬鳴菩薩としていつの頃からか、養蚕の神様として祀っています。関西ではあまり例がなかったのですが、長浜では個人の家で祭られているのをいくつか見ることができました。

(小和田委員) 不確かな記憶なんですが、吾妻鏡に馬鳴菩薩だか馬鳴大明神だとか出てきたのを記憶しているんです。馬鳴って言うのはなんだろうなと思っていたんですが、今回養蚕の神様ということを知り勉強になりました。馬がどうして養蚕に関係するのですか？

(橋本) そのあたりは、はっきりとわからないところがあります。養蚕の神様というのはひょっとすると、こじつけで、そのほかにもいろんなものが諸国祀られています。そのほかに猫。ねずみが蚕を食べてしまうので、猫をお祀りする例もありますし、馬との関連性ももう少し考えていきたいと思います。

(議長) 話がそれるかもしれませんが、さきほど岐阜県の坂内村の話をしていましたけれど、あそこから長浜の曳山の振り付けとかをしに来ておられました。

(橋本) 今回もそうですけど、繭をかついでどこからきたのか、我々が考えるほかのルート、そんな山の道がいくつも、大正まであったようなんです。面白い調査がありまして、通婚圏は意外に木之本と岐阜の割合が高いようなんです。

(小和田委員) 今の話の関連で、帯を太鼓踊りに帯を背負ってというのは、あそこだけなんですか。

(橋本) 湖北の踊りは3つの系統がありまして、ひとつは大勢で踊る行列をするもの、二つ目に頭にシャグマという飾りをつけて踊るもの、背中に短冊をつけて踊る踊りというものがあります。杉野谷と中河内つまり、湖北の東北側にこういった帯を背負う踊りの系統が見られます。

(議長) 長浜の生糸の関係で、岐阜県とは関係があるようですね。
次に議題2にうつります。説明をお願いします。

(橋本) 平成21年度の博物館事業の説明

(議長) 続いて、友の会事業についてご説明をお願いします。

(田上) 平成21年度博物館友の会事業の説明。

(議長) このことについて、みなさんご意見ありませんか。

(小和田委員) いつもながら、豊富な事業を展開されていて、感心するんですけど、今回の場合、「養蚕のふるさとをたずねる」とか、特別展に合わせた講演会をするとか、企画するほうが大変だろうなあ思いました。歴史探求ハイクの石田三成の隠れ岩窟は残念でしたね。天候悪かったですか。

(森岡) 時雨れてまして、3月に再挑戦しようと計画中です。

(小和田委員) 今でもちゃんと残ってるんですか。

(森岡) 一番最初に訪れたときは大丈夫だったんですけど、阪神淡路大震災のときに入口がだいぶ崩れたらしく、入りにくくなっていますが、入れます。昔は道がなかったんですけど、今は訪れる人が多くなりまして、行きやすくなってるんですけど、それでも危ないです。案内が必要です。

(議長) 次に議題3、平成22年度の展示計画について説明してください。

(橋本) 平成22年度の展示計画について説明。

(太田) 特別陳列「竹生島文書修復記念公開」について。展示資料は県指定文化財の竹生島文書が9年間の修理が終わったので展示をするのと、仏画の北斗九星像、重要文化財なんですけど、修理しましたので、竹生島の観音様のご開帳がありますので、その時期に合わせて展示をして行こう、修理がされた資料を市民の皆様に見ていただくというのが主旨です。

(館長) 特別展「湖北の水物語」について。塩津港遺跡ですが非常に状態がよくて、水辺にある神社、平安時代のもので。巨大な大量の木簡、神社の遺構など非常に珍しい従来の神社の雰囲気とは違う祭祀場など、文化庁も注目しており、将来的には国の史跡と考えているようです。そういう展示を計画しております。

(橋本) またNHK大河ドラマ「江」に関して、プレ展示と、石田三成没後450年記念の展示を考えております。またドラマの開始とあわせて1月からは浅井三代と三姉妹として展示を計画しております。

特別展「親鸞聖人750年御遠忌」京都の本山、大通寺や湖北の真宗、そのほかの宗派の皆さんが様々なイベントがありますが、長浜城としても湖北にある博物館として長浜の真宗について今一度検証しようということで、企画展示を計画しています。東本願寺の教務所のほうから、長浜教務所としても、湖北にどのように真宗が入りどのように展開して言ったかを検証してほしいとの要望があり、計画しました。長めの特別展を展示替えをしながらやる予定です。3月からということで、来年度予算ということになります。江の展示については、本格的な展示は夏からということで、平成23年度予算でということになります。以上です。

(議長) 何かいままでのご説明にご質問があれば。

(小和田委員) 北斗九星像っていうのは仏画？

(森岡) はい、そうです。北斗七星を中心に描いたもので、だいぶ痛んでおりましたので、国庫と県と市の費用で直しました。

(小和田委員) 塩津湖？

(館長) 塩津港です。川の修復で止めることで遺跡がでてきた。次から次に木簡がたくさんでてきたことから、材木捨て場だと思っただけです。

(議長) 次、議題4にうつらせていただきます。

(館長) 合併後の歴史文化施設について資料に沿って説明。

増えた施設のなかで学芸員がいるのは高月のみです。施設は増えたけど人は増えていない、というのが現状です。特に長浜城がしなければならないのはソフト支援です。先般増えた施設を集めて会議を行いました。そこで出た話は、入館者を増やしたいけど増やし方がわからない、逆に入館者が増えたら余計手間がかかる、というお話でした。今後長浜城の仕事としてソフト支援が増えてくるということになります。茶碗まつりの館など、1時間弱かかる、雪が降るなど。しかし県指定文化財の茶碗まつりのための貴重な資料館なので、閉館ということは困るが、地元は手に余しているのが現状のようです。おこがましい言い方ですが、長浜城の学芸員の力で生き返らせ、村の人たちに重要性をわかっていただくことが必要

であると考えています。現に茶碗まつり、丸子船の館など、開館以来企画展、展示替えをしたことはなく、ジリ貧になることは当然のこと。ソフト支援で改善をしていく必要があると思っています。また委員の皆様方のお力添えもよろしくお願いいたします。

(議長) なかなか難しい問題ですね。収蔵庫はどこがある？整っている？

(館長) それぞれに資料は収蔵しています。整っていると言うべきでしょうか。おかげで浅井の資料館は合併前よりだいぶ入館者が増えました。職員のテコ入れの成果だと思っています。浅井も歴史の会が立ち上がって、体験学習を支援したりして活気が出てきています。大学生に実習してもらおうとか、民俗調査してもらおうとかそうすると、パワーをもらって活気がでてくる、そういう仕組みを作っていないといけないと思っています。

(議長) 一回、議会の総務委員会とかに見学に行ってもらえばいいんだけど。

(小和田委員) 機構概念図をみると、すべての館長になるのですか。

(館長) 浅井歴史民俗資料館と高月観音の里は館長となっていますが、ほかは指定管理であれば館長はいます。ただトラブルがあったときなどの対応や議会への説明などは、管理原課である長浜城が行うことになります。

(議長) 事実支所が管理となっているが、実際にできるのか。

(北村) 職員については学芸業務はできないのですが、職員も地域住民でするので何とかしようという気はあります。ただどうしたらいいというノウハウはないので、長浜城の職員と一緒にやっていくということになるのかなと思います。

(小和田委員) でも担当学芸は必要では。

(館長) それぞれの担当というのは決めています。おおむね地域振興課は理解を示していて、今まで自分たちができなかったことが長浜城の力を借りてやれるのではないかと、好意的に受け取っていただいています。それと、合併後入館料を300円に揃えたので、それに見合う展示をしなければいけないと思っています。まずはそれに見合う付加価値を見つけていかないといけないと思っています。茶碗まつりの館のように4人を10人に増やすことはできたとしても、100人単位で継続していくことは難しいと考えます。入館者数だけが博物館資料館の評価のバロメーターではないことは、よくわかっていますが、わかりやすい指標でもありませんので、無視はできないと思っています。

(議長) 文化財審議会できちんとやっていっていただかないといけないと思います。

次に議題5、今後の博物館活動への意見・提言があれば、お伺いしたい。

(小和田委員) 今日、小学生がたくさん来ていたけど、あれは何ですか。

(北村) フローティングスクールというものです。滋賀県の5年生は琵琶湖を県の船で小旅行をしようというのがありまして、南の小学生が湖北にやってくるのです。

(小和田委員) 地元の学校が博物館を利用することがありますか？

(橋本) 中学生の職場体験や、校外学習で郷土学習として豊臣秀吉や石田三成などの授業や、博物館が遠い学校などへは持ち出しできる資料を持って、授業を行ったりしています。

(小和田委員) さらに博学連携を広げて行ってほしいと思います。

(議長) ほかにありませんか。

なければ、これで議題については終了いたします。慎重にご審議いただき提案事項いずれも議案どおり決議いただきました。ありがとうございました。

(北村) 嶋田会長、ありがとうございました。では、引き続き資料の内覧にうつりたいと思います。

資料内覧

野口雨情書簡等片町関係資料